

新宿 Let's協働

みんなで作る暮らしやすい新宿区



協働ピザも
いかに
NPO
企業
区民
新宿区
町会・自治会
その他

Contents

- P.2…「協働」してよかったことって何ですか？
- P.4…事例③区民と実演家を結ぶ空間「とっておき 街角スポット」
- P.6…事例④芸術活動を通じて、子どもたちから多文化共生を
- P.8…よくわかる！「協働事業提案制度」とは？

2013年
2月発行

Vol.2

メリットは、信頼性、
広報力、場所確保、
そして運営費

NPO法人介護者サポーターネットワークセンター・アラジン、NPO法人VIVID、NPO法人非行克服支援センターの3団体にうかがいました。

3団体とも、区との協働によって活動に弾みがつき、現在も事業を継続されていました。

区との協働による最大のメリットは、「信頼性が増した」「広報の効果アップ」「優先的に施設が使える」の3点。

しかし、もうひとつ、忘れてはならないメリットは、上限500万円までの区の経費負担ではないでしょうか。協働事業の多くが、高齢者や障害のある方、外国人の支援、子育て支援など、大きな利益につながりにくいいため、区の経費負担がなければ運営は困難なはず。この点については、3事業とも、提案制度の適用期間を過ぎた現在は、区との協働事業として継続しており、事業費は委託金でまかなっているそうです。一方で、利用者から、参加費・利用料をいただくなど、収入を確保して事業として継続できる道も模索されています。

「協働」してよかったことって何ですか？

協働事業提案制度について vol.1 で詳しく紹介しましたが、

この制度を利用するにはどうしたらいいんだろう？

選定されるコツは？制度のメリットは？

制度を利用したNPOはその後どうなったの？

などなど、まだまだ疑問がいっぱい。

これらの疑問について、

制度を利用したことのあるみなさん

にお聞きしました！

ているからお任せしても

大丈夫だろうとの判断から

コミュニケーションが減った、

区内部の引き継ぎがうまくついでい

ない、などはあるかもしれない。しかし、

今後も適宜コミュニケーションをとる

べきだし、広報面も協力できると思う

ので、遠慮せず区と協議しながら事業

の周知を図ってほしいと思う」

みなさんの応募を お待ちしております

この制度自体の今後の課題は、応募団体の拡大です。平成18年度にスタートして以来、これまでご応募いただいた事業数は延べ98件。うち、採択された事業は延べ19件です。「まだまだ増やしたい」と区の高橋仁さん(同)。なぜな

ら、協働事業によって地域の課題の解決につながり、私たちの生活の質の向上につながるからです。

採択されるためには審査を通過しなければなりません。そのコツも各団体にお聞きしたのでぜひ参考にして、みなさんもぜひチャレンジしてください(次回の募集説明会は5月開催の予定です)。

また、せっかくの事業も、みなさんに利用してもらえなければ、宝のもちぐされ。ご近所で、安価に気軽に利用できるサービスがありますので、ぜひ、どんな事業が行われているのかを知って、積極的に利用してくださいね。事業については、この冊子『Let's新宿協働』vol.1、2をご覧ください！

※『Let's 新宿 協働』は、新宿区役所地域調整課、各特別出張所などに置いてあります。



区民レポーター

高次脳機能障害者支援事業

医療、保健、福祉の狭間を埋める！

NPO法人 VIVID

Q ズバリ！事業の成果は？

A 相談件数が1.5倍にアップ。内容も多岐に渡るものが寄せられました。セミナー参加者から「脳の機能や障害が分かった」「アプローチが勉強になった」との声。理解が広がっています。月2回のミニデイサービスも好評。「回数を増やして」という要望も出ています！ 外部からの見学者も多く、ネットワークが広がりました。

Q 現在の状況は？

A 区との協働で事業継続中。委託になってから、定例会議がなくなり情報共有面で少し不安を感じています。



ミニデイで行われた発表会。

Q 協働事業応募者へのアドバイスは？

A 利用者のニーズを掘り起こす探究心を常に持つこと。課題を解決する方法を数年先の計画まで描きながら提案することが重要です！

制度適用期間：H21～22年度

協働した事業課：障害福祉課・保健予防課

思春期の「荒れ」「揺れ」と向き合うための連続講座の開催

思春期の子育て支援

NPO法人 非行克服支援センター

Q ズバリ！事業の成果は？

A 乳幼児期の子育てとは違う思春期の子どもに関わる大変さは見逃されがち。新宿区がこの点に着目し一緒に活動できたことで参加者が元気になり、地域の中に仲間ができていくことは大きな成果でした。講座開催の広報では、区の協力で大変助かりました。

Q 現在の状況は？

A 区との協働で事業継続中。協働事業で得られた区民の皆さんからの信頼を大切にして活動を行っています。

Q 協働事業応募者へのアドバイスは？

A 「小回り」「ていねいさ」「継続性」は民間団体の一番の良さ。この点をフルに活かし、行政が行う以上の質と内容の提供、団体の特徴を生かした提案を！



シンポジウムには子育てに悩む親たちが多数参加。

制度適用期間：H21～22年度

協働した事業課：子ども家庭課

高齢者の居場所づくり

ほっと安心地域ひろば事業

NPO法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン



ほっと安心ひろば
の魅力を
多くの人に
知ってもらい
参加者を
増やします！

Q ズバリ！事業の成果は？

A 高齢者の多い百人町アパートで「安心できる場」として認知されたこと。挨拶や立ち話、遊びや相談できる相手ができご近所づきあいが生まれたり、少しずつ地域でのつながりができつつあります。

Q 現在の状況は？

A 区との協働で事業継続中。当事業をきっかけにして、百

人町アパート14・15号棟の自治会が趣味の会(友遊会)をスタートさせたのは、予想外の波及効果です。

Q 協働事業応募者へのアドバイスは？

A 協働事業の大きな利点は行政の信頼・安心感を背景に取り組めること。お互いの認識を共有し常に情報交換を行って行くことが重要です！

制度適用期間：H21～22年度

協働した事業課：高齢者サービス課(現：高齢者福祉課)

区民と実演家を結ぶ 空間「とっておき 街角スポット」

ふだん、なにげなく通り過ぎて
いる街角のふとした場
所で、文化や芸術に気軽に
触れることができたなら……
そんな思いから、協働事業
「街角スポット活用事業」が
スタートしました。

新宿のなにげない街角に、 音楽が、演劇が、芸術が！

新宿区は、区の文化芸術資源を最大
限に活かし、区民・文化芸術団体・学校・
企業・区が力を合わせて新宿のまちの
新たな魅力を創造し、まち歩き・まち
遊びが楽しい「新宿フィールドミュー
ジウム」の実現を目指しています。

「街角スポット活用事業」は、これを
実現するための課題として区が設定し
た「公共的空間を活用した文化芸術振
興の取り組みと地域の活性化」に答え
る形で公益社団法人日本芸能実演家団
体協議会(以下芸団協)が協働事業提案
制度に応募し、採択されたものです。
主な事業の内容は、

- ①文化芸術の鑑賞・参加・創造の場と
して活用可能な駅前、ひろば、口
ビー、壁面、河川等の公共的空間を、
「街角スポット」候補地としてリスト
アップ
- ②候補地が、「街角スポット」として活
用可能かどうかの調査・整理
- ③「街角スポット」を利用したいアー
ティストへの情報発信
- ④「街角スポット」の周知と、アーティ
ストとのコーディネート

の4つ。
ねらいは3つあります。
1つ目は、活動の場を広く求めてい
るアーティストや区民の発表の場を広
げること。2つ目は、区民や来街者が
芸術に触れる機会を増やすこと。3つ
目は、施設の有効活用です。
本事業の担当者である芸団協の宮川
祐文さん、大井優子さんは「芸団協に
所属している実演家の方々から『地域
での活動の場を広げたい』という多く
の声が聞かれます。その期待にこらえ
られる事業になれば」と話します。



「区民・実演家・行政
の3者がバランス良
く楽しめる工夫がポ
イント」と芸団協の
宮川祐文さん。



「ヒアリングを通じ
てこの事業への手ご
たえを感じた」と芸
団協の大井優子さ
ん。

新宿区の豊かな文化資源を 有効活用する

郵送によるアンケート調査によって、
ピックアップされた候補地は、新宿駅
東口ひろば、大久保公園、高層ビルの
ロビー、神田川の川床、寺社境内など
53件。
「アンケート調査で、普段意識しな
いような場所が街角スポットに候補地
として挙がり、まちの一角が文化芸術
活動の発表や鑑賞の場となる可能性を
秘めているのだと再認識しました」と、

協働事業名

街角スポット活用事業

提案団体名

公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会

区担当課

地域文化部文化観光課

区負担額(予算額)

4,979千円

団体紹介

俳優、歌手、演奏家、舞踊家、演芸家、
演出家、舞台監督などの実演家等の団
体が結集し、運営する公益法人。芸術文
化の発展に寄与することを目的に1965
年に設立。現在69団体、約90,000人
が正会員となっています。芸能に関す
るさまざまな調査研究、政策提言、情
報収集・発信、研修事業など芸能文化
振興を主な事業の柱としています。

所在地(芸能花伝舎事務所)

〒160-8374

新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2F

TEL 03-5909-3060

FAX 03-5909-3061

URL <http://www.geidankyo.or.jp/>

E-mail pr@geidankyo.or.jp



パイロットプログラムとして、11月に新宿三井ビルロビーを利用して開催した、浅野祥さんらによる津軽三味線ライブ。200名を超える人が訪れました。通りかかったビジネスマンや買い物客からも足を止めていました。

新宿区地域文化観光課文化観光係長の菊地加奈江さん。

これらの情報をデータベース化するとともに、ヒアリングや現地調査を行って、「街角スポット」としての活用の可能性を探っています。

パイロットプログラムで 手ごたえ

来年度からの運用を目指し、11月～3月にかけて、候補となった「街角スポット」のいくつかで、試験的に活用イベントを実施します。

すでに、11月に西新宿の新宿三井ビルロビーで三味線演奏家、浅野祥さん

らによる「津軽三味線ライブ」を、12月にフラッグスビルエントランスでの「新宿東口クリスマススライブ」を開催し、好評を博しました。2月には新宿アイランドパティオで、3月には神楽坂エリア（白銀公園）でのイベントを予定しています。

新宿区と芸団協が 得意分野を出し合う

この事業は、公共的空間の利用が前提ですが、区と協働することで事業への信頼性が高まり、交渉や周知の面での大きなメリットがあります。また、場所が確保できても、そこを活用する人たちがいなければ、この事業は成り立ちません。その点では、多くの実演家をネットワークしている芸団協との協働は不可欠でした。

「芸団協のノウハウを大いに活用し、相互に対話を重ね、協働していきたい」と、新宿区地域文化観光課文化観光



「来て・見て・楽しむ歩きたくなるまちを目指したい」と新宿区の楠原裕式さん

街角スポット候補地調査

アンケート調査実施(6～7月)

概要●実演家・各商店街・アーティストバンク登録者等に、芸術文化の鑑賞・参加・創造の場として、活用したい新宿区内の街角スポットについて、アンケートを郵送し解答していただいた。その結果、駅、広場、公園、建物、河川、寺社等53件のスポット候補があがった。

ヒアリング調査実施(7～10月)

概要●アンケートでは聞き取れない詳しい話を、地元商店会、歌舞伎町タウンマネジメント、各種実行委員会事務局、ヘスンアーティスト及び同事務局、実演家などに直接聞いた。

現地調査実施(7～10月)

概要●候補にあがった、新宿パークタワー、新宿三井ビル、新宿NSビル、花園神社、赤城神社、伊勢丹新宿本店、丸井新宿店、新宿中央公園、白銀公園、新宿駅東口ひろばなど、施設管理側に、利用の可能性等を聞いた。

パイロットプログラムの実施・予定(11月～3月)

- 11月：新宿三井ビルロビー「津軽三味線ライブ」
- 12月：フラッグスビルエントランス
「新宿東口クリスマスライブ」
- 2月：新宿アイランドパティオでイベント実施
- 3月：神楽坂エリア(白銀公園)でイベント実施予定



「新宿区の豊かな文化資源を活用し、区民のゆとりの場が増えれば」と新宿区の菊地加奈江さん。

光係の楠原裕式さん。まさに、互いの得意分野を出し合う協働ならではの事業となりました。

「忙しい社会の中で、区民の方がゆとりをもって芸術鑑賞できるような場所が増えれば」と菊地さん。

音量規制や交通の問題などの課題もありますが、関係機関と協議を重ね、より具体的・効果的な仕組み作りを進



事業を広く知っていただくためにポスターを作り、区内に掲示しました。

めていきます。そして、地域への周知を行い、理解を得ながら、「街角」で気軽に文化芸術を楽しめる「スポット」を紹介していきます。

「新宿にこんな素敵なおもしろいところがあったんだ！」そんな発見の楽しみが広がることに期待したいと思います。

(村上弘子)

芸術活動を通じて、子どもたちから多文化共生を

新宿区に住む外国にルーツを持つ人たちの中には、地域社会に溶け込めずにいる人も多くいます。特に子どもたちは学校でも居場所が持たず、言葉や文化の違いから、授業についていけないなど、多くの問題を抱えています。このような子どもたちを、芸術活動を通して、地域に溶け込めるよう手助けし、子どもたちから多文化共生を推進していくと「新宿アートプロジェクト」が立ち上がりました。

外国にルーツを持つ子どもたちが地域に溶け込むために

新宿区には、外国にルーツを持つ方々が多く住んでいます。外国人登録者数は、約3万3千人。新宿区民の1割を超え、国籍も110を超えます。新宿区は、まさに多文化共生を実現するまちなのです。

しかし、これらの方々が地域に溶け込んで生活していくのは決して易しいことではありません。

「言葉の壁によってひきこもりになったり、友だちができず自信を失って自暴自棄になる人も少なくありません」と話すのは、しんじゅくアートプロジェクト代表の小林普子さん。



「子どもたちから多文化共生を」としんじゅくアートプロジェクト代表の小林普子さん。

同じく副代表の海老原周子さんは、あるイベントで、中国人の子どもが「日本人がいらないから落ち着く」と言うのを聞き「子どもたちはたくさんさんのポテンシャルを持った人材なのに、疎外感を感じてしまっている。こんな社会でよいのだろうかと感じた」と言います。こうしたことが、「新宿アートプロジェクト」事業を立ち上げるきっかけとなりました。

芸術創作活動を通じて自己肯定感を高め、心のケアも

この事業は、これまで「大久保アートプロジェクト」事業として、NPO法人みんなのおうちが、大久保地域を中心に実施してきた事業を新宿区全体に広げ、発展させるために、2011年に団体名「しんじゅくアートプロジェクト」を設立し、区と協働事業として実施しています。

主に子どもたちを対象に、芸術創作活動の機会を提供し、日本人と外国にルーツを持つ子どもたちが共同体験することで、多文化共生社会実現の一端を担うというものです。

具体的な活動の柱は次の2つ。

協働事業名

新宿アートプロジェクト

提案団体名

しんじゅくアートプロジェクト

区担当課

多文化共生推進課 子ども総合センター

区負担額(予算額)

5,000千円

団体紹介

多様性を生かした多文化共生社会の実現を目的として活動する任意団体。①芸術創作活動など、外国にルーツを持つ人々と日本人の共同体験を提供する ②多様な背景を持つ子どもたちを対象とした創作活動・居場所作りを通じた心のケア ③外国にルーツを持つ子どもたちを、日本と母国とをつなぐ国際的なリーダーとして育成するなどの活動を行っている。

所在地

〒169-0072 新宿区大久保1-1-2 菅原ビル3F「あわスペース」

TEL 03-3204-0916

FAX 03-3204-0916

E-mail shinjukuartproject@gmail.com



写真ワークショップ、映像ワークショップに参加する子どもたち。新宿区内の様子を撮影する中で、まちの人たちとの交流が広がる。(写真：Yui Ishikawa)



①芸術ワークショップ事業

地域住民参加型の芸術ワークショップの実施を通じて、互いを知り、認め合い、共に多文化共生社会を作っていく機会を提供します。

②子ども達の居場所作り・巡回展示事業

子どもたちが定期的に集えるスペースを設け、創作活動の中で自己表現できる機会を提供します。
また、作品を地域内の公共スペースに展示し地域との接点とします。

これらの活動を通じて、子どもたちは地域の一員という意識を持つことができ、それが自己肯定感につながり、心のケアにもなります。「新宿区で育った外国にルーツを持つ子どもたちは、日本語や日本文化に通じ、将来は日本と海外との懸け橋となる国際的な人材となりうる」と小林さん。
また、本物のアーティストを招いての創作活動を、広く発信することで、新宿というまちの魅力を外内に知っていただく機会にもなります。

外国にルーツを持つ子どもたちは貴重な文化資源



「NPOの力で行政では行き届かない点をカバーできる」と新宿区多文化共生推進係長の宮端啓介さん。

「これまで、区内在住の方だけでなく、在勤在学の方も含め、行政サービスの提供や、情報提供などを行ってきましたが、行政では行き届かない点も多い。協働事業によって、外国にルーツを持つ方々が地域に溶け込めるようにすることは、われわれ行政としても、意義深いと感じています」と地域文化

部多文化共生推進課多文化共生推進係長の宮端啓介さん。
区では、芸術ワークショップや、作品の巡回展示を行うための、公共スペースの確保や調整を行ったり、区民に広く周知することを担当しました。



「広く活動を知って参加してほしい」と子ども総合センター児童館運営係長の堀越和雄さん。



「多文化共生の過程を実感できた」と新宿区多文化共生推進係の青江和さん。

活動の場を提供している児童館では、「たまたま遊びに来た子にも声をかけて、ワークショップに誘うなど、気軽に交流できる雰囲気を作っています。作品を見て、すごいね、面白いね、というやりとりから交流が生まれることもあります」と、子ども総合センター児童館運営係長の堀越和雄さん。

「活動を通して、だんだん子どもたちは打ち解けてきたように思います。人と人がつながっていくのを間近に見ることができて勉強になりました」と多文化共生推進係の青江和さん。

「外国にルーツを持つ子どもたちは貴重な文化資源です」と小林さん。この事業で関わった子どもたちが成長し、多文化共生の次世代のリーダーとなっていく。一歩進んだ新しい多文化共生のロールモデルが、ここに実現しようとしています。

(野澤秀雄)

よくわかる! 『協働事業提案制度』とは?

⇒ 協働事業提案制度ってなあに?

地域が抱える様々な課題で、かつ、行政だけでは解決が困難な課題について、NPO等と行政の知恵と力で解決するためのしくみです。

⇒ 具体的には……

- 新宿区で活動を行うNPO等の団体が、**事業の提案**をします。
(区からあらかじめ設定されたテーマに対する提案、自由提案のいずれでも可)
- 学識経験者や区民らによって構成される**審査会が審査**します。
- 採択された**団体は、区と協働**し、該当事業を運営します。
- 事業の経費のうち概ね100万円から500万円までを**新宿区が負担**します。

⇒ 目的は?

- **地域が抱える様々な問題を発見し、解決**します。
- 行政が担ってきた公共の分野への**区民参加**を促します。
- **地域の活性化**を促します。
- 団体の提供するサービスを利用することで**区民の生活が豊か**になります。

⇒ 提案事業の条件は?

- ☑ 社会貢献的事业で**地域や社会的課題の解決**に役立つ事業
- ☑ 区民の満足度が高まり、**具体的な効果・成果が期待**できる事業
- ☑ 多くの区民やNPO等への**波及効果が期待**でき、**継続や拡大が見込まれる**事業
- ☑ 事業を通じて区民の地域活動への**参加意欲の掘り起こし**ができる事業
- ☑ NPO等と区が協働することによって**相乗効果が生じる**事業
- ☑ 明確かつ妥当な**協働の役割分担**で実施できる事業
- ☑ 協働事業を提案するNPO等が実施することが可能である事業
- ☑ 予算の見積もり等が適正である事業
- ☑ NPO等の**活動基盤強化**や**組織・人材の成長**につながる事業

[注]・特定の個人や団体のみが利益を受ける事業、学術的な研究、住民の交流行事等の親睦会的なイベント等は対象外となります。

・上記の内容は平成23年4月1日現在のものです。区では平成24年度に制度の見直しを行い、募集内容は平成25年度より変更になります。

事業の流れ



編集後記

●取材を通して、新宿区には様々なNPOが活動している事を実感でき、それを紙面で区民の皆さんにご紹介できた事を嬉しく思います。
(ひろこ)

●取材を通して知らない社会が見えてきました。NPOの方々は活動の現状や目的を熱く語ってくれます。多くの人が身近なNPOの活動を知って、参加して活用して地域のつながりをもっと広がると思います。
(たき)

●取材では、NPOの心意気を聞いてその底力に期待し可能性が広がってゆくのが感じました。ワークショップでは、子どもたちを見守る大人たちも思わず笑顔。この現実を上手く伝えたいと思いました。
(秀雄)

●取材をし記事を作成していた区民レポーターのみならず、取材にご協力くださったNPOのみならず感謝します。この冊子が協働の推進の一助になればうれしいです。
(じん)

「Let's 新宿 協働」は、新宿区が行っている「協働事業提案制度」について広く知っていただくために、新宿区民からなる編集委員が、区民目線で、読みやすくわかりやすい読み物を目指して制作しました。編集委員は、市民レポーター養成講座の修了生の中から希望者を募り選ばれたメンバーです。

新宿区協働事業提案制度による平成24年度実施事業のご紹介 「Let's 新宿 協働」 平成25年2月発行

編集・発行／新宿区地域文化部地域調整課 新宿区歌舞伎町1丁目4番1号

TEL.03-5273-3872 E-mail: chiikichosei@city.shinjuku.lg.jp URL: http://www.city.shinjuku.lg.jp/

印刷・製本／M&W株式会社 〒169-0051 西早稲田3-18-9 西早稲田クレセントマンション314 TEL.050-3736-2196

編集人／石井栄子(いしづる) デザイン・DTP／大野佳恵 表紙写真／戸井田夏子

印刷制作番号 2012-21-2601

この印刷物は業務委託により3,000部印刷製本しています。その経費として、一部あたり46円(税別)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。